



TITLE:

水族館

AUTHOR(S):

CITATION:

水族館. 瀬戸臨海実験所年報 1989, 3: 10-10

ISSUE DATE:

1989-03-31

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/178841>

RIGHT:

水 族 館

1987年中の水族館活動は例年通りで、展示内容もほぼ前年と同様である。昨夏に改装を終えた第3水槽室淡水コーナーの各展示水槽は、その後順調に機能している。本年中の主なできごととは次の通り。

1. 大蔵省・文部省の指示により、4月1日から次のように観覧料金を改訂した。これに関連して、観覧規定も一部を改正した。

区分	個人	団体 (20人以上)
大人 (高校生以上)	400 円 〔350 円〕	350 円 〔300 円〕
		(30人以上)
小人 (中学生以下)	100 円 〔50 円〕	50 円 〔20 円〕

〔 〕内は旧料金。

2. 第3・4水槽室改修案の再検討：老朽化した第4水槽室の改修は、かねてより概算要求を続けてきたが、これに第3水槽室の改修も加えて要求することになり、5月から7月にかけて、この両水槽室をまとめた改修案と、それに関連する多くの資料を大学本部へ提出した。また文部省大阪工事事務所長・本学企画課長など、関係部局長の視察が相次いだ。

3. 第414号水槽で最長飼育記録(27年)を更新中のクエが7月1日に死亡した。全長113.5cm、体重27.3kg(全盛期より著しく減少)。死因は前頭部より左眼を経て口腔に及ぶ悪性腫瘍であった。

4. 沖縄海洋博記念公園水族館が標識放流したアカウミガメ(直甲長29.5cm、体重5.47kg)が神戸港で再捕され、7月11日に神戸市立須磨海浜水族園より当館へ届けられた。この幼亀は予備水槽で体力を回復させたのち、8月11日に田辺湾口四双島沖へ再放流した。

5. 昨秋、町内富田袋漁港より入手し、予備水槽(2×1×0.5m:1m³)で育成中のオニカマ

ス 幼魚23尾(61年9月18日の全長9~15cm)は、共食いや栄養障害などで18尾が死亡したが、残った5尾は全長42cm、体重470g平均に成長したので、10月12日に第417号水槽に展示した。計測と移転は、魚体の損傷をさけるために、MS-222麻酔下で行った。その後も順調に飼育中。

6. 採集・輸送用トラックを11月2日に更新した。新車は低床フルフラット型500kg積で、対海水防錆対策として、荷台にFRPコーティングを施した。

7. 第1水槽室の創設以来15年間使用してきた第3号新鮮海水揚水ポンプ(エバラFRPポンプ5.5KW)は、著しく老朽したので更新した。新機はエバラFSN型ナイロンコーティングポンプ3.75KW。この機種はFRP製の旧機よりも性能が良く、1ランク下の動力でも揚水量は旧機とほぼ同様である。



カプトヒザラガイ
Callistochiton jacobaeus (Gould)